

グリーン・ツーリズム実践者の活動意識とその背景 Green-tourism Workers' Thoughts and Their Background

○齋藤 朱未*, 藤崎 浩幸**, 田中 ゆい**

SAITOU Akemi, FUJISAKI Hiroyuki, TANAKA Yui

1. 研究背景・目的

青木はグリーン・ツーリズム（以下 GT と略す）を、「農村と都市の相互補完・共生による国土の均衡発展」を目指すもので、農村地域と都市住民との「意欲」あるいは「思い」に架橋するものと位置付けている¹⁾。しかし既往文献の多くは都市住民目線からのニーズ調査が多く行われているものの、実践者の思いを深く追求した研究はない。そこで本研究では、どのような GT 実践がどのような思いで活動しているのか、その背景にあるものは何なのかといった実態を把握することを目的とした。

2. 研究方法

- (1)調査対象者を、青森県在住者で GT インストラクター育成スクール²⁾を受講し、所属、受講時の活動状況、得意な活動分野が異なるように考慮した 9 名の実践者に、2010 年 12 月にライフヒストリー³⁾の手法を用いて聞き取り調査を行った。
- (2)聞き取りの結果から、実践者の『思い』を KJ 法により 4 つの方向性に整理し、その思いの背景として、実践者が GT を開始した『背景』、『きっかけ』についてまとめた。

3. 結果・考察

聞き取り調査の結果を集約したものが表である。まず、実践者の『思い』については「農業理解・振興」「地域振興・地域内文化伝承」「楽しみ・癒し」「GT システムの強化」の 4 つの方向性に区分できた。そのうえで、『思い』の背景についてみていく。GT 開始の『背景』についてみてみると、KK/MS/MK は実家が農家または農業に関わる仕事を行っている。また、KM と OM は福祉の仕事に携わるなど、農業とは直結しない仕事に従事していた人もいた。次に GT を始めた『きっかけ』に関して、KK は牧場で働く従業員が辞めるのを阻止するためにも、牧場をにぎやかな場所にしたいと考えた。また副収入を獲得するために始めた人 (KM/KS) や消費者教育を行うことが農業の未来につながると考えた人 (MK) もおり、これらをビジネス的な考えに基づいている「ビジネス的要素」とした。また YS/OM/HI は GT 実践者と知り合いだったことで興味を持つようになったことや、MI は農家と触れ合った機会があったことで就農に結びつき GT を始めていることから、他者の影響により GT 活動を始めた「触発的要素」とした。その結果、『思い』の方向性として、ビジネス的要素の人は GT で楽しみや癒しを提供したいと考えており、触発的要素の人は GT を通じて農業理解・振興を考えていることがわかった。しかしながら、今回の調査対象者の状況から『思い』に対する背景に部分的な共通性はみられるが、全体を通じた共通性はみられないことから、『思い』の定式的な類型化を行うのは困難であるといえる。

1)青木辰司:「グリーン・ツーリズム実践の社会学」(2004) 2)(財)都市農山漁村交流活性化機構が実施

3)谷富夫:「新版ライフヒストリーを学ぶ人のために」(2008)

所属: * 岩手大学大学院連合農学研究科 The United Graduate School of Agricultural Science, Iwate University

**弘前大学農学生命科学部 Faculty of Agricultural & Life Science, Hirosaki University

キーワード: グリーン・ツーリズム Green Tourism/活動意識 thoughts on green-tourism/青森県 Aomori pref

表 GT 実践者の活動意識形成

Table Green-tourism workers' thoughts and their background

GT 実践者就業状況	KK	MS	MK	KM	KS	MI	YS	OM	HI	
観光牧場経営	・ハープ生産者 ・農家喫茶・農家レストラン運営	・農家(米、果樹) ・バイオエネルギー会社代表	・観光農園(果樹)従事者	・新規就農者 ・観光農園(果樹)従事者	・親光牧場にパート勤め	・農家(果樹、野菜)	・小規模農家(米、長芋) ・近隣にパート勤め	・小規模農家(米、長芋) ・近隣にパート勤め	小規模農家(米、野菜)	
活動内容	・牧場体験 ・ユーホステル ・ペンション ・レストラン	・果樹の摘み取り体験 ・GTインストラクター養成推進	・農家体験(一般・小学生) ・中学生の農業体験	・農家(米、果樹)会社代表 ・小学校農家体験 ・農村民泊 ・「みんなたば！」 ^注	・ヘルパーをしていた ・障害者が外に出る機会を増やしたいと考えていた	・果樹の摘み取り体験 ・大学の授業中に、農家や自然に触れた	・みそづくり体験 ・畑土のおやつ指導 ・藍染	・農家民泊 ・農村体験 ・農家の朝飯	・牧場体験 ・棒パン・ソーセージ作り体験 ・加工品出荷	
背景	・兄の夢を引き継いで牧場を始める ・当時は何も無い山奥だったため、人通りも少ないところだった	・実家が農家 ・よく兄弟と自然の中で遊んだ ・農村の暗いイメージをどうにかしたかった	・夫が足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・ヘルパーをしていた ↓ 障害者が外に出る機会を増やしたいと考えていた	・夫が足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・大学在学中に、農家や自然に触れた ↓ 就業意識が高まった	・自分の居住地区に誇りを持っている ・高齢化に伴う地域力の衰退を感じていた ・生活改善グループに所属していた	・介護の仕事をしていて ↓ 一介護予防推進 ・空き家となった知人宅で勉強会・交流活動をしていて	・介護の仕事をしていて ↓ 一介護予防推進 ・空き家となった知人宅で勉強会・交流活動をしていて	調理の仕事をしていて
きっかけ	・従業員が淋しくてすぐに辞めてしまおう ↓ 牧場を人の集まるにぎやかな場所にしたい	・叔父の「農業なんて必要ない」という言葉に刺激を受ける ・消費者教育の必要性を感じる	・畑に足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・夫が足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・畑に足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・農家との触れ合いから農業に魅力を感じた ↓ 就業意識が高まった	・GT実践者の提案 ・小学校の廃校によって薄れた地域内交流を復活させたい	・直売所でGT実践者と知り合い、GTに興味を持つ ・空き家維持・利活用	・直売所でGT実践者と知り合い、GTに興味を持つ ・空き家維持・利活用	GT実践者と知り合いだった
思い	・人間性を取り戻し ↓ でもらうことが牧場の意義 ・自然の中で心を癒されて欲しい	・地域を活性化 ↓ 農村に若い力を入れたい ↓ ・明るく、楽しく農業をしたい ・消費者とのつながり	・畑に足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・畑に足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・畑に足を悪くした ↓ 車いすでも出られる知り ・副収入を得たい	・農業作物を知って欲しい ↓ GTを通して新規就農者の後押しをしたい	・地域文化を残したい ↓ ・算会所(隣校)を直売所にしたい	・農業を真摯とした活動をしたい ↓ ・分野の垣根を取り払った新しい分野への挑戦	・農業を真摯とした活動をしたい ↓ ・分野の垣根を取り払った新しい分野への挑戦	・とにかく楽しんでほしい ↓ ・体験や自然の中で、自分の楽しみを発見してほしい
【思いの方向性】	農業理解・振興	地域振興 地域内文化伝承	楽しみ・癒し	GTシステムの強化	GTシステムの強化	触発的要素	触発的要素	触発的要素	触発的要素	

注) 企業が参加し、農家と共同する新しい田畑づくり事業。企業も農地も地元も元気になる情緒可能な「企業の田畑づくり」を目指す。